

談話会通信 No.57

東京蜘蛛談話会

今年も、暖冬のため、梅の花が、みごろのところも多い
ようです。ウモタリも、わりと、空気に冬をこせ、よく
今年も、にぎわいをみせると思います。期待は、

新入会員の方です。よろしく

笹岡文夫 〒170 豊島区、北大塚 3-12-21



瀬戸康彦 〒250 神奈川県小田原市飯泉 478-7

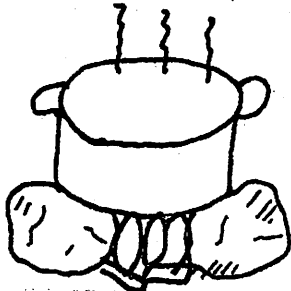
採集・観察会のお知らせ

日：2月15日(日)

集合場所：国鉄鳥沢駅 AM10:00

会費：300円位

当日、お昼に豚汁を作ります。なお、飲物(ジュース等)は各自持参して下さい。



皆様の参加を御待ちしております。
会員外の方も是非誘って下さい。



●東京の牧草匠に
「キシノウエタテグモの
飼育観察」

2年前、1984年5月17日、午後、
家の近くの路上で、キシノウエタテグモ
の♀成体を、1個体採集しました。
それが、7月の中旬ころ産卵し、8月の
中旬ころ、子グモがうまれました。
うまれた子グモのうち、5個体を飼育
し、(内1個体は85年の4月頃
死亡)。その後2子を継いで86年の
9月に、残り4個体の♀が、1個体
が♂の成体とまりました。(1986年
9月14日、♂成体と確認。

他の3個体は、触肢・額胸部
脛節などの外節形態からみて、♂ら
かに♀と思われました。

(♂成体の体長 -- 約10mm)
10% 計測)

(♀の体長、♂個体とほぼ約10mm前後)

※ 1984. 8月 ♀グモ 11匹
1986. 9月 ♂成体と確認。

約1年11ヵ月でキシノウエタテグモ
は、成体になるようです。

そこで、同じ親からうまれたクモど
う、♂の成体が現れたのだから、♀
も成体になっているかもしれないと
キシノウエタテグモの交配時期ど
ある。10月の下旬から11月にかけて、
これらの♂、♀を交配させよう
としたのですが、どうしても♀3個体
とも、♂を拒否してしまいます。10
月の初旬、夜になると、家の近くを
キシノウエの♂成体が、よくうろつ

→ いました。この野外を徘徊中の♂
を2個体採集し、♀に(飼育中の)
接触させてみましたが、これも
拒否しました。

おそらく、キシノウエタテグモは、
♂が成体となる時間よりも、♀の
成体となる時間のほうが長く、♀
は、いずれも、まだ成体とま
っていないために、♂を拒否するの
が正しいかと思えます。

この拒否拒否の様子について
少し報告いたします。

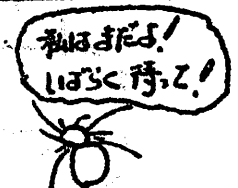
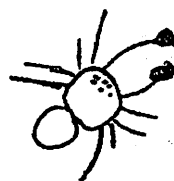
本立に入る前に、クモに対して用いた
番号と記号などについて申し上げます。

- No. 1 -- 1985年4月ごろ死亡
- 2 } 1984年8月から今まで生存
- 3 } 子に由来
- 4 }
- 5 -- 1986年9月14日
♂成体と確認したものを。

上記のNo. 1 ~ No. 5までは、
いずれも、1984年8月から、継続
飼育しているものです。

- A. 1986年10月1日採集の♂
- B. " 10月4日 "

上記A、Bは、1986年10月に、
家のまわりを徘徊していた野外で
採集した、♂成体のクモです。



1986年10月4日(土)

10月4日に採集した 否B を
使い、No. 2 との 接触をこらめた。

No. 2 の 飼育ビン

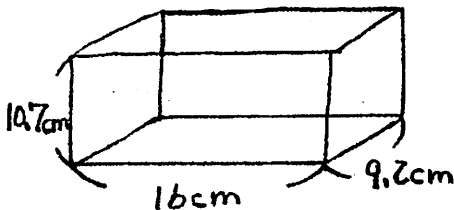
高さ 60mm, 直径 29mm の ガラスビン
中には、土を 底から 45mm の 高さ
まで入れたもの。

住居は、地長の ほぼ中央につくられ、
住居の フタの 入きさは 約 10mm。

この No. 2 の 住居の フタを 取り、ピン
どめと、とじられ 白いようにして、
否B を、飼育ビン内の 地長に
おいた。否B が 下に びくくするように、
ビンの 口には、コルクで 軽く、ふた
をして おいた。

暗くすると、否B は 活発に 動きまわり、
体の 前半部を No. 2 の 住居内
に入れて、ついに 足を 入口まで 這い
だした。(がし、今回は、飼育ビン
の 直径が 小さく、否B が 十分に
動けず、足場が 悪かったため、失敗
した。No. 2 は、中に入り、出よう
とはしなかった。

1986年10月10日(金)



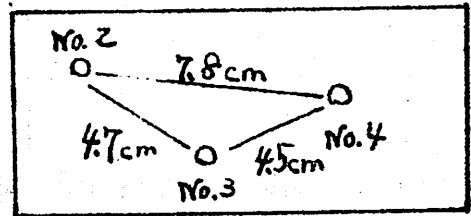
10月5日(日)に
上記の ような、プラスチック容器に
底から 7cm ほど 土を 入れて、No. 2
と 3 の 子を この中に 移し入れた。
(前のビンでは 小さく、せまかったため)
上記の ような 容器にした。

→ あらびじめ、インピツゴ、深さ 5~6cm
直径 8~9mm の 穴を あり、その
穴の そばに、No. 2 と 3 の 子グモ
を おいた。その さい、グモが 逃げ
ないように、4cm ほどの 直径の
プラスチックビンを 上部に かつ
おいて した。

10月6日の 夜には、No. 2、3 とともに
新しく 住居をつくり、フタも、かつと した。

また、No. 4 の 子も 10月16日(木)に
この 容器に 移し入れた。No. 4 は、
10月18日(土)には、新たに 住居
をつくりあげて した。

容器内での No. 2、3、4 の
各個体の 位置関係は 下の 図の よう
である。(真上より みたもの)



住居入口部分の 入きさ

No. 2	9mm	約 10mm
No. 3	9	12mm
No. 4	9	10mm

入口の 開口部分

(いざねも 1986年12月15日 計測)

以上の ように して、No. 2 と 3 に、
採集した 否を 個別に、シャーレで
ふたをして 行動範囲を せまめた
あと、住居 近く に 戻して みた。

今回、否は 子に対して、接触は)
と する 行動は とら なかった。

10月20日(月)

合の成体と似たNo.5のキシウスは同じ20日(月)の昼すぎ、自分の住居を出て、天井のすみど静止していた。19日の夜から20日の朝にかけて、住居を出て、こまよい出たと考えられた。

このNo.5の合を17時30分すぎに、No.4の♀の住居付近の地表におき、6cmほどの大きさのシャーレをおいて、行動範囲をせばめた後、暗いところに移して様子を見た。

しばらくするとNo.5はこまどみに触腹を上下に振動させ、No.4の住居のフタをぬけて、その中へ前脚・触腹をさし入れ、こまどしたまわりに動かしていた。そのうち、下からNo.4の♀が上がり、てきたらしい。まもなく観察していたのだが、♀は住居入り口で、歩脚を上方に上げ、合は自分の歩脚で♀をよえ、長い触腹をのびし、激しく動かしていた。

3~4秒ほど、合は、♀と離れ、No.4の♀は住居の下の方におり、合は、住居のフタをしめてしまった。合は、♀の住居からはなれて、シャーレのふらど、オー歩脚・触腹を何回もフリーニングしていた。

その後、♀は、No.5の合をNo.2の♀の住居のそばにおいておいた。合は歩きまわっていたが、♀の住居の所になると、動きが変化し、前方にのびした触腹を、こまどみに振動させ、No.2の住居のフタを(おそらく上向きで)、うらばりした。しかし、今回、No.2の♀はフタがぬかぬかしないよう、おきていたため、接触は失敗した。

→先の、No.5の合とNo.4の♀の接触では、獲らみかっていたのだが、立接が行われたようも様子にも感じられた。しかし、その動作が、わずかに3~4秒しか続かぬが、たことを考えると、おそらく真の立接は、おこなわれていまいとおもわれた。

11月9日(日)

夜、No.5の合を、再び♀No.3とNo.4に接触せよと試した。No.5は歩きまわり、♀の住居のフタの所になると、静止して、触腹の先を振動させ、♀を刺突する。

(住居の周囲、フタを触腹で叩く)

すると、♀は、いざれも住居のフタを、中から蹴く引いて、ぬき、合を拒否する。

11月20日(木)

夜、No.5の合、Aの合2個体を使い、♀との接触をおこなった。

No.5は、あまり♀に対して、積極的ではなかった。合AをNo.4でためした。

こまどみの試みでは、♀は、どの時間帯も合を住居内に入らず、門前ばらりのあたりを合にとどまらせたため、(合が♀の住居に自然に入れたのは、1%のNo.5とNo.4との、指触のみである)。直径6cmほどのシャーレをおいて、そのシャーレのふらど、No.4の♀の住居フタをおいて、とどまらぬようにし、シャーレの中に合Aをいれた。

20日の0時ころから、合Aは、触腹を前方にのびし、ぬきおきに、入る方を上下に軽く振動させながら、No.4の住居入り口部の周囲を徘徊し、ついに住居内へ入り込んだ。

しばらくして、再び地表にごとせが、また中に入り、出たり入、たりを2-3回繰り返していた。

ふいに合Aは、後ずりし地表外に出た。合のうしろには、No.4が、見れていた。子は、うごきをみせて、及びぎの奇聲をとっているように見えた。合Aは、子のうしろに近づき、四肢でたたくていたが子は、幼房の中に入ってしまった。

それを追って、合Aも再度、子の住居内に、ほぼ全身をいれて、子の気をひく努力をしていたらしい。

その後、0時7分ごろ、合Aは、No.4の住居から出て、急ににげました。

合Aを観察したところ、右の四肢が、まわれ、基部を残すのみと見えた。No.4の子にヒキかきまわされたらしい。

(この合の四肢は、1mm程度の長さ)と化して、No.4の住居近くに出まわっていたのを、11月24日(月)に発見)

今回も定棲は、先般にぶかり、その上、合の四肢の1本を失うという被害を生じたため、合Aを飼育容器に戻した。

シャーレをどけると、No.4の子は、すぐにはなごこきて、フタをしっかりと引き、とじてしまった。

以上ご、キシウエトクテグモの、合と子の接触行動の状況についての観察の記述をおきたいと思います。

前述した日以外でも、何回か、ころめたのどすか。合が子の住居に入るごときは、早、住居のフタを、シャーレかビンごとひき、たまたまにしておいた場合のみでした。

この日人為的日操作とせう、たに合を子の住居近くに放した場合は、合が子の住居を突入して、そのフタを四肢でたたくはじめる。どのようにして認知するのかが、不思議なのどすか。ほどむくして住居内部からフタを引き、しかつととじて、合の侵入を拒否してしまふのどす。

合は、早がまだ成体となつて、そのことを、認知ごときないのどすか。

明らかに合は、子の住居を確認すると、積極的は求愛行動をとるようどす。

自然の状態では、合は子ごめは、ジグザグに求愛するのどすか。として、うまく成体と接触した合が、交渉ごきるのどすか。

このことに関して日に文献が、ありません。お答え下さい。

観察の中に登場した合は、おは1988年12月15日までに死亡し、No.2, 3, 4の子3個体が生存し、越冬に入りました。

来年の10月ごろ、合を採集し、再び子との接触を、試みようと思つておきます。

2年ぬまり キシウエトタテグモを飼育して、感じたのは、地中性のモ類の飼育観察は、その生活場所が、地中の住居内に限られているため、脱皮や、摂食の様子・産卵などの行動をくわしくみるのが、難しいのが多くなって、ゆがみしということでした。

今の査定、体長の計測も、難しくぬまり正確な生活史を明らかにすることは、いかに難しいかと思わされます。ただ、2年ぬまりの間に、えられた、ごく少ない観察記録がありますので、次の機会に、またお送りしたいと思えます。

お返しに、貴重な記録をおおくりいただきました。

たいへん飼育してくれて、地中性のキシウエトタテグモを、2年以上かけて、卵→成体に至るまで飼育されたという事は、まことに、すばらしいことであると、思えます。お返しくばかりです。

どうぞ、この記録とよかったですね。お返しに、いろいろお尋ねしたり、アドバイスをとおおくり下さい。よろしくお願ひします。

飼育中の、貴重なお写真も、おおくりいただきましたのが、誠に申し分ありませんでしたが、お返しに、お返しくばかりです。

〒157
世田谷区 上祖師ヶ谷
1-40-12-201
牧 孝 匡 謹

＊ 少年の詩です。

読売新聞 1986年10月22日
一 朝 刊

題 黄色いカニグモ

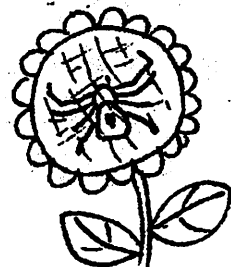
作 石田 かつのり
(千葉県八街町ニ州小・2年)

ぼくと
ぶにいちぎしとどうえた
こうかくのヒマワリが
花がさくと
めずらしい黄色のカニグモ
がきました
すをつくらないで花の中に
かくれんぼうをしています
小さいけれど
花びらとおなじ色なの
とこもかわいいです。

この詩をよんで

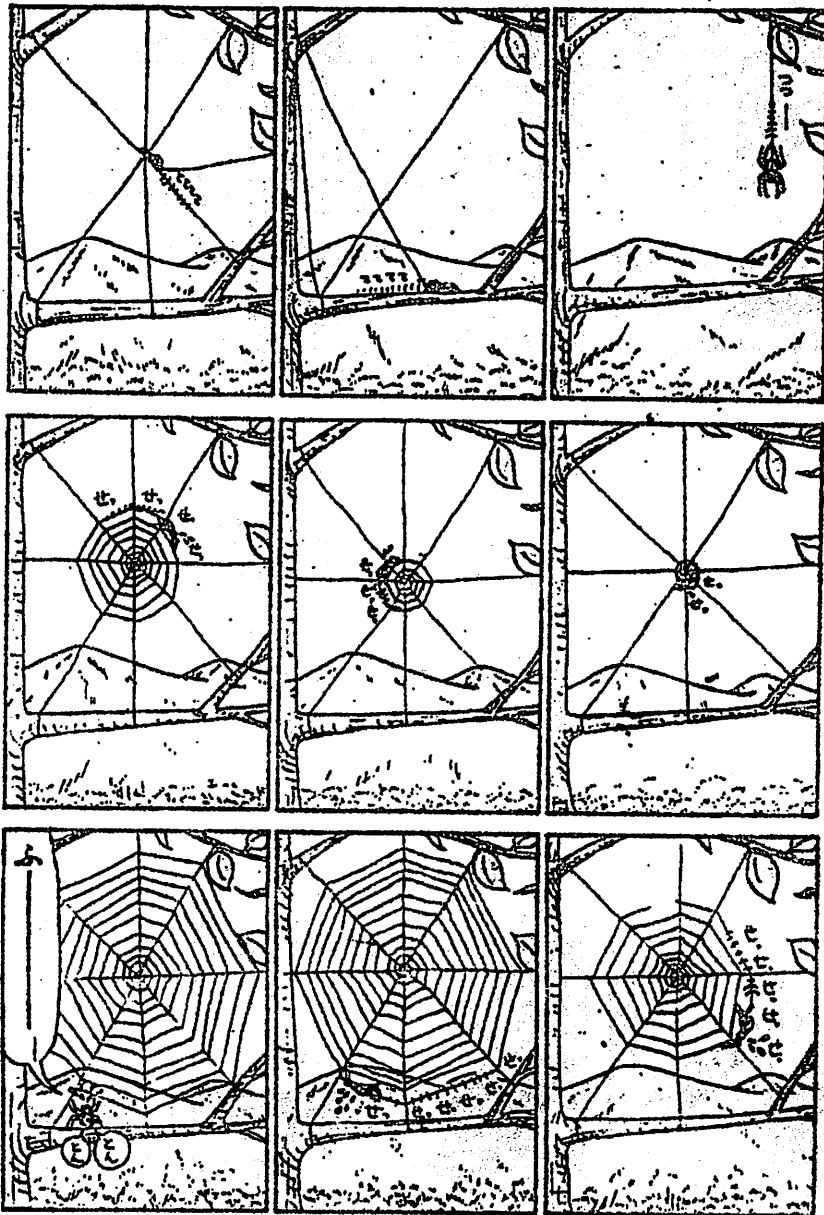
川崎洋三が次のようにいいます。

(カニグモは、花がさくのを
まわっていたのであつね。わたしは、
カニグモを知らなかったため、
ちとく本を調べました。
はやく本物を見てみたい。)

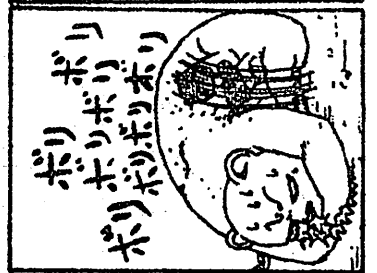
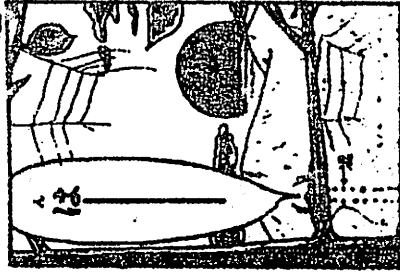
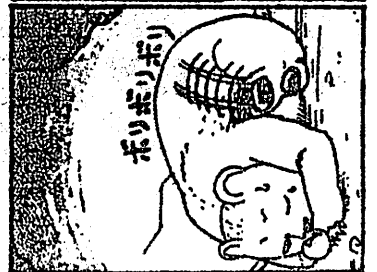
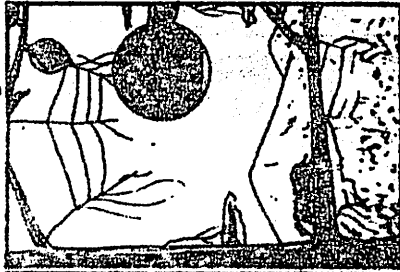
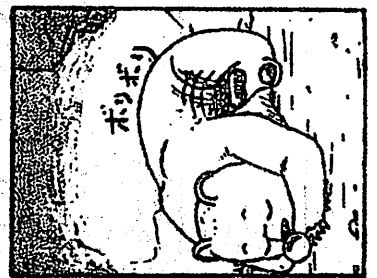
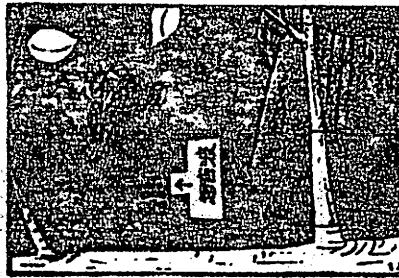
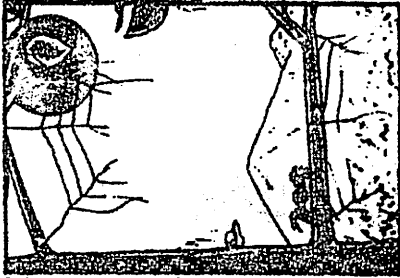
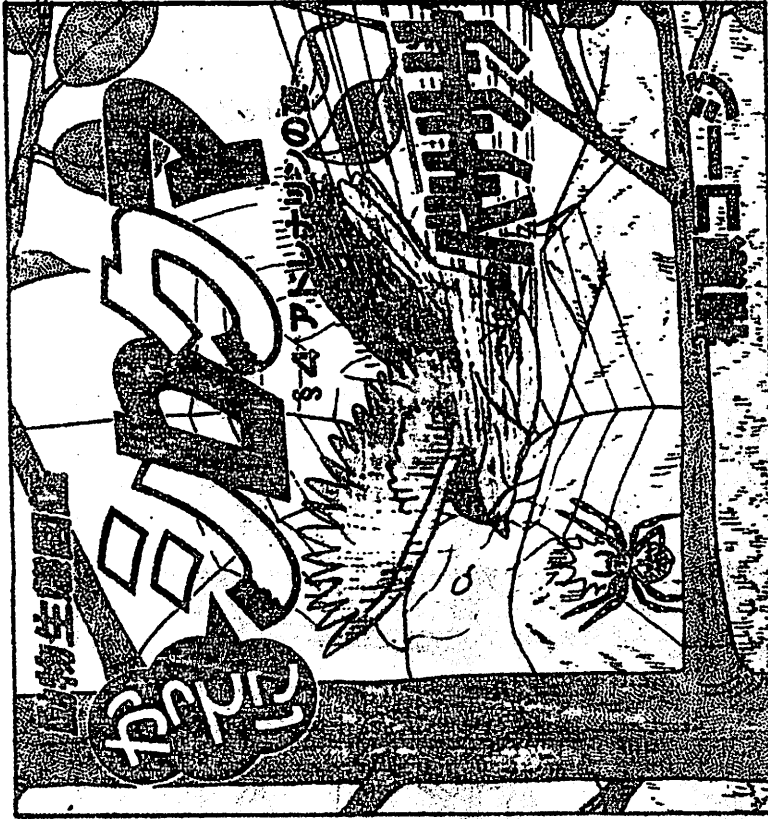


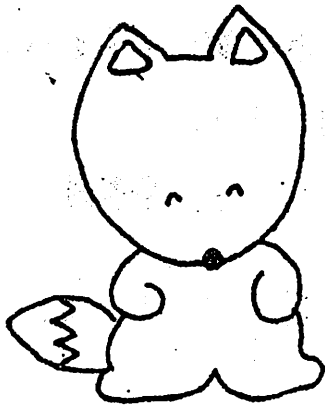
、東京の熊田寛一さんより、クモの網がわかる漫画、よくしていただきました。

—クモの悲哀がよく出ていて、思わず笑ってしまいました。エナガやセッカなどクモの網を利用する鳥もいくつか知られていますが、糸の42年ぶりにクモの気持ちがあらわれているようです。(熊田) —



漫画了クション 9月17月号 (1986年) の巻末に
 鳥がクモの網を利用する





会計報告

会費納入状況(敬称略)

59年度 山本一博

60年度 山本一博

61年度 瀬戸康彦, 内田善晴, 伊佐地利行, 近藤恭子
笹岡丈夫

62年度 板倉泰弘, 伊佐地利行, 近藤恭子, 菅波洋平
松田まゆみ

※振り込み先 口座番号

横浜 0 - 1460 東京蜘蛛談話会

※会費

学生 2000円 (高校生以下)
一般 2800円

会費の納入はお早めに!

会計についてのお問い合わせ等は下記へ

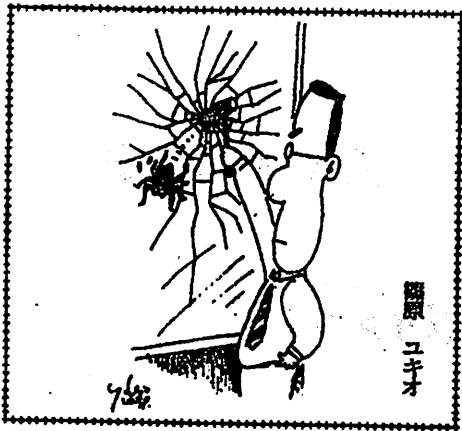
井上房枝 045 (941) 3121

小池牧子 044 (588) 5422

蜘蛛談話会 伝言板 - 御自由に御便、下さい -

- 2月15日(日)の採集会にて運営委員会を行います。
 議題は、年間計画などです。
 また、採集会の場所として良い所がありましたら、事務局まで連絡を下さい。お願いします。
- 運営委員を募集しております。性別、年齢等は問いません。
 談話会が好きな方でしたらどなたでもかまいません。くわしくは、事務局まで。
- 年間計画は次号の通信にてお知らせします。おたのしみに!
- Kishidaia. 55に
 通信の原稿を募集
 いたしております。

訃 報
 当談話会会員の入辻桃海氏
 は昨年逝去されました。謹んで
 哀悼の意を表します。



今年に日って、はやいもので、
 すでに1か月がすぎてしまいました。
 「光陰、矢の如し」ぞおね。

ふたばいに、時を、さびしく
 時間を大切に使う、こいさたのもの
 ぞす。今年、みじかに、さび
 しい発見がありますように。

事務局
 松浦祐司 03(392)9962
 〒167. 杉並区 萩窪 3-7-6-207
Kishidaia 編集
 熊田寛一 0425(55)4462
 〒190-11 西多摩郡 羽村町
 羽村 3-6-31
通信編集
 鈴木勝浩 0489(91)2984
 〒343-01 比叡郡 砥川町
 砥川 3-385

談話会通信 No. 57
 編集 鈴木勝浩
 62年 2月1日 印刷・発行
 東京蜘蛛談話会